

# 六月の俳句

( 2 0 2 0 / 0 6 )



## 目次

たべもの俳句	モロク俳句	歳時記俳句
13	8	1
）	）	）

紫陽花や梔子の花が咲き始め、雨がより緑を濃く引き立たせる季節のはじまり。

(宇佐美保幸)メール・zeirisi777usami@aol.com

毎日の俳句は次のブログに  
巢鴨とげぬき徒然俳句  
<https://blog-haiku.777usami.com>

六月にやる気が出れば長生きに  
六月や作句とブログ繰り返す  
更衣すれど心は閉じたまま  
夏が来る政治家も着るかりゆしを  
かりゆしを着て恐竜の展覧会

紫陽花が好き紫陽花は雨が好き  
雨ざあざあ何も語らず紫陽花は  
暮仇のごとに憎しや紫陽花は  
フラスコに紫陽花生けて実験室  
もつと降れ紫陽花に雨雨や雨  
天気予報紫陽花日和始まりぬ  
あぢさゐにギターを鳴らし雨のごと  
紫陽花も時に淋しき彩となり  
青空もそして雨降る濃紫陽花  
紫陽花も屍となりて青揚羽  
あぢさゐや小路の奥に我が家あり



群れ咲きてされど孤独な水芭蕉  
 水芭蕉水面に群れて花揺らす  
 涙する静かな時間水芭蕉  
 水芭蕉兎の耳か神の耳  
 何事もなかったごとく水芭蕉  
 群れ咲いてされど孤独か水芭蕉  
 悔しくは悔しと言えよ水芭蕉  
 もういいさ欲を失う水芭蕉  
 水芭蕉何に遠慮かその高さ  
 アイリスや日本に根付いて主張する  
 この国は女が長寿アマリリス  
 宇宙線脳をつらぬくジギタリス  
 向島江戸を求めて花菖蒲  
 沙羅の花一日ごとに別の花  
 ペツパーを話し相手に蛍の夜



戦争は相も変わらず青螢

梅花藻の白き花こそLED

長慶禅寺梅花藻白を際立たす

夏狩湧水梅花藻白を際立たす

梅花藻は流れに沿って流されず

梅花藻にほかの人生あるなしや

左派なのかそれとも右派か山椒魚

ジャズピアノ響き渡って忍冬

寛容にきれいな事などすいかずら

真実は誰もわからず忍冬

池袋一人立ち飲み走り梅雨

走り梅雨ツナ缶あわせ無限なり

救急車半音下がり梅雨に入る

挿し木して用意万端梅雨間近



梅雨きたる雨雨ふれふれ八代亜紀  
 雨蛙雨つれてきて梅雨来たる  
 吾もまた昔魚類か梅雨に入る  
 雨傘が追い越してゆく梅雨の坂  
 梅雨の夜パソコン相手の「笠碁」かな  
 匙なめてカレーの余韻梅雨の夜  
 鳴り響くパイプオルガン外は梅雨  
 公園の東屋ベンチ梅雨見酒  
 荒梅雨が蓮の葉叩く不忍池  
 送り梅雨災害もたらす異常気象  
 梅雨の日々木々だけ伸びて元気なり  
 爪を切る爪を切ろうと梅雨の日  
 フランク永井有楽町に梅雨の雨  
 梅雨の日の哲学本やチョコレート  
 梅雨の闇事実わい曲塗り込めり  
 馬鹿は馬鹿馬鹿な議論や梅雨の闇  
 孤独死を恐れはしない蛞蝓は



孤独死を恐れはせぬとなめくじら

夏至の日も地球公転正確に

池袋薄紫に暮れる夏至

夏至の日や地球公転変わりなく

昼顔が宇宙と交信パピプペポ

海亀の卵の数ほど星光る

瀬戸の海泳いでくれるか蝸牛

螺旋状それは悪夢か蝸牛

句の世界懲びた言葉が氾濫す

平成は早くもまさに懲が生え

茄子の花紫式部も眺めしか

退屈なテレビ特番茄子の花

ハンカチにアイロンかけて妥協せず

飛魚の目立ちがりやは先頭に



十薬の花の匂ひをどう描く

梅雨雲はグレーな社会陽の光  
梅雨寒や中耳炎が暴走す  
梅雨休み時に綺麗な風もあり  
梅雨荒らし豪華客船寄港する  
パソコンもご機嫌悪し梅雨暑し  
菜種梅雨孫の切り絵の後始末  
ノボリフジ黄色じゅうたん海岸を  
無人駅その群落ゼンテイカ





モロク俳句

爪切も難しモロク夏来たる  
歳時記も我もモロク黴の花  
青黴に嗅覚薄れモロクす  
モロクし計算苦手みみず這う  
花榭ころがわりはモロクし

押し黙るモロクすれば桜の実  
モロクし戸惑い多し手毬花  
アマリリスモロクすれば雨に濡れ  
モロクしトースト焦がしアマリリス  
モロクし疲労ばかりやアマリリス  
びわの種楽しモロク種あかし  
モロクし後悔足して立葵



モロロクす忘れはしないところてん  
栗の花モロロクすれば自己顕示  
青蛙来るなモロロク食へぬもの

モロロクし青紫蘇一枚揺れおらむ  
十薬の花の数だけモロロクし  
十薬の花の悔悟やモロロクし  
モロロクし記憶か夢か蛍飛ぶ  
モロロクし記憶異なる蛍の夜  
モロロクし蛍の光ただ光

紅蜀葵いつまでとがるモロロクし  
河骨や成長すればモロロクす  
紫陽花の雨をながめてモロロクし  
モロロクをいつまで生きて濃紫陽花



バツハ聴くモーロク進む梅雨曇り  
梅雨に入るモーロクしても梅雨は厭  
梅雨めくやモーロクすれど旅路あり  
モーロクの人にも犬にも梅雨深し  
梅雨の日々パジャマでゆるくモーロクし  
理不尽にモーロクすれば梅雨の雷

モーロクし昼酒醒めぬ夏至の夜  
モーロクしたただつぶやいて父の日と

万緑やモーロクしても声の張り  
万緑や自律神経モーロクし  
かたつむりモーロクすれば雨の中  
モーロクし空耳多くかたつむり  
モーロクしこの気だるさも梅雨冷や  
梅雨晴れにモーロクすれどうきうきと



モーロクし淋しくなりぬ牛蛙  
モーロクし鼯大きく牛蛙

ひきがえる吾はモーロク一步ゆく  
ひがえる一步モーロクはじまつて  
ぼうふらよそれも人生モーロクス  
モーロクし何が真実忍冬  
モーロクし余生疎まし釣り忍





たべもの俳句

資源なりざりがにうまし特産に  
ざりがにもフランス料理シェフの腕  
プチトマト誰彼なしに愛想良し  
プチトマト食べる男の指長し  
プチトマト食べてもやはりプチトマト

玉葱がキッチン隅に根を伸ばす  
玉葱の皮むき男愛す世は  
玉葱を豪快にむきハヤシライス  
玉葱におかかを乗せてだし醤油  
玉葱をみじん切りして目薬を  
スーパ―に新旧玉葱並べられ

サバ缶で冷や酒を飲み泳ぐ脳  
朝がゆや芒種の雨よおとなしく



見栄を張る男料理にパセリ添え

柿若葉夫婦で食べる他人井

柿若葉二人で食べる他人井

黒南風鶏皮焼いておつまみに

黒南風スパイス各種買い足して

曲がっても胡瓜は胡瓜我もまた

六月の卵焼きなら厚く焼き

六月の冷製スープ喉小川

スパゲティ冷麺風に工夫して

夏野菜たっぷり添えて焼肉を

しその葉を刻んで乗せて朝ご飯

麻婆には山椒か七味濃紫陽花

ハヤシライス泰山木の花開く



葉柳の風に吹かれてあんパンを  
葉柳の木陰で二人カツサンド

自家製の酢キャベツ出来て夏燕

油断して鯔の開きを黒焦げに

鯔フライ醬油を使う昭和人

夏至の朝塩分減量味噌選び

インド人もスープカレーで夏至の宵

夏の風邪ステークス食べて退治する

スタミナを夏のすき焼き赤ワイン

それぞれの筈に平等冷やうどん

大盛りに一つの筈に冷やうどん

鰻料理素人は無理骨切りは

金鰻を大阪名物紙鍋で

鮎の腸なぜかおいしき日本人

ドライカレーあれこれ添える夏野菜



焼き飯に花椒振つて外は梅雨  
 黙々ともんじや焼いてる梅雨の夜  
 梅雨晴れや迷い迷つてカツ丼を  
 梅雨の雨ドレッシングを選びかね  
 梅雨に入る南蛮漬のあんばい酢  
 梅雨に入り皮をパリパリ鶏を焼く  
 焼き餃子しつかり蒸して梅雨の宵  
 ヨーグルト自家製でこそ梅雨の朝  
 レトルトで済ます一日梅雨の雨  
 そうめん唐揚げプラス孫と昼  
 孫達と大笹盛りの冷や素麺  
 食卓にスマホが二台冷素麺  
 ナスを焼き素麺茹でる男あり  
 タイマーをセツト素麺湯へ放つ





